

第44回日本都市計画学会学術研究論文発表会 The 44th Convention of The City Planning Institute of Japan@Nagaoka

11月14日から15日にかけて、新潟県長岡市にある長岡技術科学大学において、第44回日本都市計画学会学術研究論文発表会が開催され、都市デザイン研究室からは7名が発表しました。長岡の晩秋の寒さに負けぬ、熱い議論が交わされました。学会後には有志で新潟市、村上市のまち歩きを行いました。

Seven members of Urban Design Lab. read papers at the 44th convention of The City Planning Institute of Japan, which was held on 14th to 15th of November at Nagaoka University of Technology. After that, we made a small trip to Niigata and Murakami.

text_abe

発表会&ワークショップ

今回は論文の採択率が5割にも満たないという厳しい審査があった中で、都市デザイン研究室からは7名が発表を行いました。途中スライドが止まったり、映らなかったりといったハプニングもありましたが、2日間濃密な、活発な議論が交わされました。また、OBやOGである先生方とも交流を持つことが出来ました。

14日(土)の夕方からは「国際的視野から都市計画法抜本改正を考える」というテーマのワークショップにも参加し、海外4カ国(アメリカ、イギリス、ドイツ、韓国)の都市計画法制の紹介の後、日本の都市計画法制について聴衆も交えた議論がありました。自分の研究につながる部分についての言及もあり、大変勉強になった充実した2日間でした。

新潟・村上まち歩き

学会後は有志5名で、D1松井さんの案内のもと、15日(日)夜に新潟市の古町周辺、16日(月)に村上市のまち歩きを行いました。新潟市では中心部にある花街の名残の感じられる古町を歩きました。雪国だけに雁木文化から発展したと思われる、アーケードが縦横無尽に整備されていることに驚きました。村上市では旧城下町の風景を取り戻そうとする住民の方々の努力が至るところで見受けられ、ご自宅を丁寧に説明して下さる住民の方もいらっしゃり、同じ部屋に仏壇と神棚が上下にセットになって共存している等の村上の町屋ならではの特徴を実際に見せて頂きました。また、町屋の外観再生プロジェクトや黒塀プロジェクト等のまちづくりに対する住民意識の高さを肌で感じました。



▲歴史系セッションで発表する永瀬さん



▲ワークショップの様子



▲黒塀プロジェクトを体感

第44回日本都市計画学会学術研究論文発表会 論文発表者

発表者	題目
松井大輔	自主条例から移行した法定景観計画における制度内容の進展状況と課題
江口久美	フランスの都市の保全的刷新におけるボトムアップ型アソシアシオンの活動に関する研究
中島伸	東京都戦災復興区画整理事業における市街化計画からみた計画実態に関する研究
野原卓	地方臨海工業地帯隣接市街地における都市空間形成とその変容過程に関する研究
永瀬節治	昭和戦前期における檀原神宮を中心とした空間整備事業に関する研究
(阿部正隆)	飯沼一省の米欧外遊と地域計画との遭遇
鄭一止	韓国ソウル北村地域の町並み保全型マウルマンドゥルギにおける住民組織の活動に関する研究
窪田亜矢	路上生活者支援と住宅施策におけるハウジングファーストの導入に向けて
中島直人	イギリス近代都市計画成立期における都市協会論と先導的都市協会の活動に関する研究

※() は共著セカンド、中島直人先生は欠席

佐原PJチーム、スタッフとして参加—全国町並みゼミ— Sawara PJ members participating as staff in "Zenkoku-Machinami Seminar"

全国各地で町並み保存に取り組む団体が一堂に会する第32回全国町並みゼミ佐原・成田大会が11月13日から15日にかけて千葉県香取市・成田市で開催され、佐原PJチームはスタッフとして参加し、各分科会の記録及び、閉会式にて分科会での議論の報告を行いました。 text_suzuki

テーマが「民官学による歴史まちづくり」という分科会では、行政人でありながら6つものNPOに参加し、民と官の連携を深めている方や住民組織が成功事例を作り出すことで、行政の後押しを促そうとする団体等、多くの興味深い話を聞くことが出来ました。住民の方々のまちづくりに対する情熱に圧倒されたと同時に、負けられないの思いを持って、自分もまちづくりに関わっていきたくと思いました。一方、住民組織が集まるため、行政に対する一方的な批判が多かったように感じられ、相互の連携を考えると、このような会に行政の方も参加し、互いに意見を聞き合う必要が今後はあるのではないかと。両者の間にうまく入っていける我々、学生が出来ることは何かを考えさせられる3日間でした。



▲大会会場に溢れる住民団体の熱気

柏スタジオ中間ジュリー Interim jury on studio@Kashiwa

新たな田園都市構想という難しくも、やりがいのあるスタジオで、我々はTX沿線の柏たなか駅を中心とした地区の既存農地を地域資源とした新たなライフスタイルの提案を行っています。今回の発表では、前回からさらに議論を重ね、農のある都市空間や住民のライフスタイルのデザイン、既存都市計画との整合性などを視点としました。多彩な講師の先生方からは厳しくも、さらなる議論のきっかけとなる講評を頂きました。最終発表まで残り1ヶ月。既存の枠組みに捕われず、新たな都市像の実現に向けて全力で臨みたいと思います。



▲先生方の厳しい視線

UDCK 3周年記念イベント Three year's anniversary of UDCK

11月20日(金)、UDCK(柏の葉アーバンデザインセンター)において、3周年記念イベント「柏の葉モビリティフォーラム」が開催されました。電気自動車やセグウェイの試乗イベント、おさいふケータイを用いて、レンタサイクルの手続きが出来るスマートサイクルの社会実験等の様々な企画に参加しました。また、堀洋一先生の基調講演においては未来のモビリティの様々な話を聞くことができ、1日を通じて貴重な経験をさせて頂きました。



▲未来のモビリティ"電気自動車"

コンペ連続入賞—LDSE2009優秀賞—

Another prize in the current year's competitions

11月23日(日)、「50年後のみなとみらいの都市環境を考える」というテーマで行われた学生コンペLDSE(Landscape Design Student Exhibition)2009にて、M1 大熊・黒川・永野、B4 毛井・前川・安川の6名による作品「みなとぶたい」が優秀賞を受賞しました。

B4 毛井 意子・前川 綾音・安川 千歌子

普段なじみのないランドスケープ...ですが、ここは専門の都市計画的な切り口で攻めましょう!という作戦で挑みました。当日のポスターセッションではあまり人が集まらず、不安になりましたが、前川による美しいプレゼンと事前にシミュレーションを積んだ大熊さんの隙のない質疑応答が、審査員の方々には好印象だったようでした。私たちの提案は、他の提案とは雰囲気異なるものですが、空間を皆で詰めたかきもあり、「なんかおもしろそうなんだよね。」という審査員の方々の好意的な感想は、2週間ほぼ寝ずに頑張った衰弱した私たちの体に染み入りました。コンペ初挑戦の私たちにとっては、とても勉強になりました。また何か挑戦したいです!!



▲プレゼンを前に緊張する一同

情報欄

都市デザイン研究室

おしらせ

「晴れのちシャボン玉 @つくえ通り」開催!

11月28日(土) 14時~

浅草PJ

11・12月の予定

11月28日	浅草PJ「晴れのちシャボン玉@つくえ通り」
12月7~9日	足助PJ調査
12月16日	2009年度第11回研究室会議
	2009年度 忘年会@鳳鳴館
12月20日	綱PJ「ヨルトモ報告会」

編集後記

text_abe

鈴木がインフルエンザに罹ったため、代打阿部でお送りしました。いよいよ冬かと思わせる寒風とキャンパス内の色づいた木々に季節の移り変わりを感じます。最近では構内で写真を撮っている方もちらほら。各PJとも年末に向けて、慌ただしくなって来ました。体調管理には十分気を付けていたいです……